

災害時への備えとしての4つの課題

ひょうご震災記念21世紀研究機構 室崎益輝

次の巨大災害に備える

▶ 正しく学び、正しく恐れ、正しく備える

「備える」には、複眼的な視座が必要

(1) 教訓を学ぶ

被災の教訓だけでなく復興の教訓も

学ぶだけでなく、伝えること、生かすことも

学んで伝える、学んで生かす、生かして伝える

(2) 危険を知る

未知の危険や最悪の事態についても

悲観的に想定し、楽観的に準備する

敵を知るだけでなく己を知ることも忘れず

正しく教訓を学ぶ

大震災の教訓・・・正しく構えるために

- ▶ 過去の大震災が問いかけた大切な教訓 を再整理すると・・・「教訓は繰り返す」

(1) 関東大震災の教訓

油断大敵、用意周到、臨機応変

(2) 阪神・淡路大震災の教訓

危機管理、事前減災、自律連携

「自助・公助・共助」も

(3) 東日本大震災の教訓

最悪想定、多重防禦、広域連携

大震災の教訓・・・正しく備えるために

▶ 被災の教訓と復興の教訓がある

被災の教訓では、命と暮らしを破壊した要因を

復興の教訓では、健康と暮らしを回復した要因を

(1) 被災の要因・・・減災の主要課題

家屋の倒壊と家具の転倒・・・阪神・淡路大震災

避難の遅れと物資の不足・・・東日本大震災ほか

耐震補強、室内安全、率先避難、事前備蓄

(2) 復興の要因・・・復興の社会基盤

多様な主体の協働と連携・・・阪神・淡路大震災

自律連携

正しく危険を知る

大災害の被害想定

- ▶ 私たちの命と暮らしを脅かすリスクを正しく捉える

災害の頻度と強度の関係を踏まえて備える

最悪のケースや不測の事態でも、命が守れば、それよりも軽微な災害では、確実に命を守ることができる・逃げるが勝ち！

災害の多様性を踏まえ未知の災害にも備える

阪神・淡路大震災で顕在化しなかったリスク？

身の回りのリスクを具体的にイメージする

社会的機能のマヒや支援欠落による孤立

被災側リスクの認識

- ▶ 加害側の破壊力だけでなく被災側の対抗力にも目を向ける・・・社会のレジリエンスが問われる

超高齢化社会にいかに向き合うか

社会混乱・・・帰宅難民、群衆パニックなど

機能停止・・・ライフライン遮断、救援の遅れなど

地域分断・・・コミュニティ破壊、支援格差など

- 「健康診断」を踏まえての脆弱な体質改善を
まち歩き、耐震診断、防災検定など

正しく災害に備える

自助、公助、互助、共助

- ▶ 多様な担い手がそれぞれの責任を果たしつつ、力を合わせて助け合うことが欠かせない
 - (1) 自助と公助・・・それぞれの責任を果たす
 - 自助・・・自己の責任と公助の限界
 - 住宅の維持管理、非常時のファーストエイド
 - (2) 互助と共助・・・相互扶助の精神を発揮する
 - 互助・・・コミュニティ・運命共同体の支えあい
 - 「みんなで避難」、「コミュニティ備蓄」

減災活動の実践とマイプランの策定

- ▶ 各世帯ごとに、各地域ごとに、各職場ごとに、
大災害に備えた防災計画(マイプラン)を作成する
協働とネットワークの体制
減災目標の設定とその実行管理
能力や資質を生かしたそれぞれの役割分担
- ▶ 地区防災計画の策定をはかる
コミュニティレベルで減災計画を策定する
家具の転倒防止、要援護者の避難誘導、
地域安全まちづくり推進員や防災士の活用など